

初級ドイツ語授業実践報告

—教授法の改善をめざして—

A Report on Basic German Classes for an Improvement of Teaching Methods

武 田 輝 章

Takeda Teruaki

Wer fremde Sprachen nicht kennt, weiß nichts von seiner eigenen.

外国語を知らない人は、自国のことばについて何も知らない。(ゲーテ)

キーワード：教授法・体験学習・フィールドワーク・グローバル化・読書生活

目次

1. 学生どうしのインタビューでアンケート
2. 短大生が抱くドイツのイメージとドイツ語の知識
3. 往年のドイツ語教育と教授法
4. ドイツ語授業報告と学期末試験解説
5. ドイツ語フィールドワーク
6. ドイツ映画鑑賞とドイツ文学鑑賞
7. 大学のめざすべき授業と短大でできる授業

本論は、大村はまの迫力に満ちた教育実践¹⁾に触発されて、これまでのドイツ語授業を振り返り、これからの授業改善を手探りする試みである。最初に鹿児島女子短期大学の「ドイツ語演習」について筆者の授業例を紹介する。18歳の女子学生がドイツにどんなイメージを抱いているか、ドイツやドイツ語の知識はどれくらいあるかをアンケートで示す。次に、現代のドイツ語授業現場と筆者が学んだ時代のドイツ語教育とを比較する。さらに、いくつかの授業の試みや学生へのアプローチを示すとともに今後の授業改善案を探る。最後に、アメリカ・イギリスの大学を参考にして日本の大学の授業を展望し、あわせて本学で可能な授業のヒントを提案する。

1. 学生どうしのインタビューでアンケート

一般教養科目の外国語について、本学の全学生は英語、ドイツ語、中国語、韓国語の中から好きなものを選び、選んだ外国語を1年間履修しなければならない。過去3年間のドイツ語受講者数は、

平成24年度が111名（入学者数469名）、23年度が83名（509名）、22年度が115名（558名）で、ドイツ語の選択率は、それぞれ24%、16%、21%であった。

毎年、第1回目の授業は学生どうしがインタビューすることからはじまる。2人1組がアンケートの質問項目に従って、お互い新聞記者になったつもりで相手から情報を聞き出す。アンケートが目的というよりは、はじめて出会った学生たちに話のきっかけを与え、教室の空気を和ませるのが主なねらいである。おそろおそろインタビューをはじめた学生たちの中から、やがて話のはずむペアも出てくるが、話のはずみ具合は学科専攻によっても異なるようである。

10項目の質問アンケートの中から、ここでは「ドイツ語を選択した理由」と「ドイツ語の授業に対する要望」を記載する。ドイツ語を選んだ理由としては、はじめての外国語に対する興味が大きいこと、授業については楽しくてわかりやすい授業を望むというのが、ほぼ毎年の結果である。以下は、平成23年度の教養学科と生活科学科の合同クラス（33名）の例である。

☆ドイツ語を選択した理由（後ろの数字は人数・以下同様）

はじめての外国語7、学んでみたかった・興味があった・前々から学びたかった6、英語以外のヨーロッパの言語2、ヨーロッパが好きだから2、将来ドイツに行くため2、先輩の勧め2、かっこいい・使えたらかっこいい2、楽しそうだから2、面白そうだったから2、第1希望に落ちたから2、習う機会が少ないから1、ヨーロッパに行きたい1、響きがかっこよかった1、家にドイツ語の辞書があったから1、英語より簡単そうだったから1

☆ドイツ語の授業に対する要望

楽しい授業・笑いのある授業・面白い授業9、わかりやすい授業・簡単な授業9、日常会話ができるように4、自己紹介できるように1、テストを簡単にして1、暗記するだけの授業は嫌1、つまらない授業は嫌1、見やすい板書を1、グループで勉強したい1、フレンドリーな感じで1、ドイツについても教えてほしい1、面白いドイツ語を教えて1

2. 短大生が抱くドイツのイメージとドイツ語の知識

第2回目の授業では、毎年、各個人に対して「ドイツと聞いてイメージするもの」と「知っているドイツ語の知識」について無記名で聞いている²⁾。以下は平成24年度の例で、2クラスの合計受講者数は107名（児童教育学科・生活科学科・教養学科）であった。

☆「ドイツ」と聞いてイメージするものは？

多くの学生が挙げた「ドイツのイメージ」を上位から記載する。ドイツは「ビール」が有名であるとした者が35名（33%）と最も多かったのに対して、「ワイン」を挙げた者はわずか3名であった。同じく多かったのが「ベルリンの壁」で35名（33%）である。1989年のベルリンの壁崩壊やそれ以前の東西冷戦の歴史については、高校までの授業で学んだのであろう。3番目が「サッカー」で28名（26%）、ドイツのブンデスリーガ Bundesliga（この名を挙げた者が1名あった）で日本人が活躍していることも大きく影響しているようだ。

ドイツ最大の負の遺産である「ヒトラー」や「ナチス」というイメージはやはり大きいし、「軍服」や「軍隊の行進」といったイメージもドイツから離れないらしく、19名（18%）が言及した。

食べ物については「ソーセージ」23名(21%)と「じゃがいも」16名(15%)を挙げた者が圧倒的に多い。「ヴルスト」(Wurst)というソーセージを表すドイツ語名をカタカナで書いた者も数名あった。食べ物については、これ以外では「お菓子」を挙げた者が1名いただけで、ドイツ語圏のクリスマスケーキやチョコレートなどについてはほとんど知られていないようだ。

わが国の輸入外車のほとんどを占めるドイツ車については、わずかに「ベンツ」を挙げた者が1名いたに過ぎない。自動車に対する女性の関心の低さを示しているだろう。誰もが知っているはずの「グリム童話」の話題は全くなかった。わずかに「メルヘン」について挙げた例は、『ブレーメンの音楽隊』と勘違いしたと思われる「メルヘンの音楽隊」の1例だけであった。グリム童話は知っていてもドイツとは結びついていないものと思われる。

以前はドイツ語との結びつきが強かった「医学」や「音楽」についての情報は、予想以上に少なかった。もっとも、高校で「野ばら」をドイツ語で歌ったという1例があったし、お医者さんの「カルテ」を挙げた者も数例はあった。ドイツ人のイメージとしては、背が高くてカッコいいというのがある一方、「ごつい」や「硬い」という印象も多いようだ。日本人に似て礼儀正しい、器用であるというのも1例ずつあった。最近では、むしろファッションなどの情報が発信されているのか、おしゃれな感じというイメージも出てきたようである。その他、アウトバーン、ビスマルク、プロイセン、Uボート、ルール炭田、テディベアを挙げた者がそれぞれ1名ずついた。

☆ ドイツやドイツ語について知っていることは？

この質問に対しては、未記入の者が30名、知らないと答えた者が20名、合計で50名(47%)であった。知っているドイツ語として挙げてきたのは、「グーテン・ターク4、グーテン・モルゲン2、ダンケ・シェーン1、イッヒ・リーベ・ディッヒ1、女性名詞や男性名詞がある1、BMW1、ich1、シュバルツの意味は黒1」だけで、ドイツやドイツ語についての予備知識はほとんどないことがわかる。

3. 往年のドイツ語教育と教授法

ここで、『関口・初等ドイツ語講座』から関口存男(1894~1958)の教授法を紹介したい³⁾。この3巻本のドイツ語文法書は、筆者が大学へ再入学した1974年、第2外国語のドイツ語授業(必修科目)で最初に紹介されたものである。当時の大学教養部で、はじめてドイツ語を学ぶ者のために推薦された参考書であって、ドイツ文学を専攻する学生のために薦められたわけではない。3巻本であるから、当時としても本格的な文法書(現在でも入手可能)ではあったが、文科系の学生であればこの程度のレベルは当然のものと期待されていたと思う。序言を読んで、関口存男という人物の魅力にたちまち惹かれたことを、今なつかしく思い出す。関口本人が言うように少々品のわるい口調ではじまるが、昔のドイツ語教育の雰囲気がよく出ている。

「簡単にまとめた一冊の入門書は、数えられないほどたくさん出ていますが、正直に批評すると、そんなものはみんな子供だましです。・(この講座は)百貨店式な賑やかな講座ではない。講座には、まるで雑誌みたいな賑やかなのが多い。・会話があたり、文学があたり、作文があたり、絵があたり、写真があたり、ドイツの紹介があたり、・あれも商策です。ああしてお

くとバカが大勢寄って来るのです。

はっきり言いますが、バカは百貨店の方へ行っていただきたい。この講座は横丁のひっそりした老舗です。主人が少し封建的で気むづかしいのが欠点といえば欠点ですが、そうかといって別に無愛想な顔をした覚えはありません。一定の手がたい客が一定数出入りする。品物は、種類はたくさんないが、質においては百貨店などとは比較すらして頂きたくない。考える所があつて考える所の物を考える所の人に売っており、考える所の人には理解されている。」(2頁)

この序言には、「文法の基礎を習熟させる」ために、馬車馬的に「文法の一本路」を引っぱっていくという明確な教授法が述べられている。基本単語400~500語を繰り返し使って、ドイツ語文法を叩き込む方法である。「単調だ！なんて不平をいったら、馬鹿野郎！と行ってどなりつける」という乱暴なやり方である。この教授法が現代の学生に通用するかどうかは疑問だが、ドイツ人と接しない環境の中でドイツ語をものにする方法としてはおそらく唯一の方法であろう。

「ほんとうに初めてドイツ語をやり出す人をつかまえて、一時もはやく見当がつくようにしてやるにはどうしたらよいか？ それは、すぐに ABCD の字を叩き込み、次に語の発音をおしえ、発音がわかったら（不完全でもよろしい！）次にはすぐに、男とか女とか子供とか家とか本とか木とか道とか、“置く”とか“見る”とか“行く”とか“眠る”とかいった四五百の基礎単語を何度も何度も繰り返しながら、それらの結合法（即ち文法！！）を叩き込むことです。即ち、右も見ず、左も見ず、馬車馬的に文法の一筋道を引っぱって行くことです。

面白いとか面白くないとかいうことは問題にならない。面白ければついて来る、面白くないとついて来ない、といったような人たちは、それはどうせ駄目な連中だから、ほったらかしておけばよい。またそんな連中に悪口をいわれれば著者としてこれほど光栄なことはない。・・・だから、同じような例題を幾つも幾つもやらせて、まるでピアノの授業のように、指が軽く動くようにならなければ次へは進ませない。“単調だ！”なんて不平をいったら“馬鹿野郎！”と行ってどなりつける。バレエの訓練もこういう風でしょう。算盤の練習もこの通りでしょう、タイプライターだって同じことです。習字もそうです。水泳も、野球も、ボクシングも、スポーツはすべてそうでしょう。ただ、これらはすべて肉体の筋肉と神経を訓練する。語学は（殊に書物の上でやる時には）頭の中の筋肉、大脳の筋肉を訓練する。この点だけの相違です。

大脳の筋肉というやつは、いったいどういう風にして訓練するか？ それは“考えつつ習熟し、習熟しつつ考える”の一言に尽きます。」(3頁~4頁)

4. ドイツ語授業報告と学期末試験解説

ここで、平成24年度前期授業の最初数回の指導案とその経過報告をしておく。「ドイツ語演習」の授業は、基本的に児童教育学科49名の1クラスと、生活科学科と教養学科合同61名の1クラス、合計2クラスで行なった。しかし、前期のみは大学管理の仕事上、2週間に1度は3学科110名（児教49名・生活44名・教養17名）の合同授業となり、初歩の語学学習としては難しい条件下であった。

※ 1回目（平成24年4月9日）の授業（一部のみを記載・以下同様）

- ・すでに述べた「学生どうしのインタビュー」が中心となる。なお、毎回授業の最後にはB4版の用紙1枚分の新聞記事を学生に配布する。記事はドイツ語やドイツ語圏の話題のほか、英語やフランス語に関する記事とともに日本語に関する記事なども入れる。各学期終了時には15枚の新聞記事が学生の手元に残り、これも学期末試験問題の対象となる。

※ 2回目（4月16日・3学科合同）の授業

- ・挨拶のことば「グーテン・ターク」（こんにちは）を教える。
- ・まず、「理屈抜きで、聞こえた通りに発音を真似る」ように指導し、何度も練習させる。幼児がことばを覚える時のように、目で見て覚えるのではなく耳で聞いて覚えるのが自然な順序であることを意識させる。
- ・その後、「ノートに、聞こえた音をカタカナで表記」させる。音を教えるだけで、カタカナも板書しないしドイツ語でどう書くかも教えない。
- ・2回目の授業終了後、「ドイツ語でどう書くかを教えてほしい」という学生がやって来た。そのほか、「ドイツ語は面白い」と言ってきた学生が数名いた。学生に「知りたい」という気持ちを引き起こさせ、それに対して「教えないで焦らす」というのも効果的な方法なのかもしれない。

※ 3回目（4月23日）の授業

- ・「こんにちは」をカタカナで「グーテン・ターク」と板書する。英語と異なり、カタカナだけを読んでもドイツ人に通じるという奇跡を、ドイツ語の文字を教える前に伝授する。この点に関しては、英語と比べてドイツ語がいかにやさしいかを必要以上に強調し、「英語よりドイツ語の方が日本人に合った言語である」ということばでしっかりと学生を誘惑する。
- ・外国語になった最近の日本語として「漫画」がある。英独仏の順に発音を大胆に表記すると、ほぼ（英）manga「メンガ」・（独）Manga「マンガ」・（仏）manga「モンガ」となり、音声としてはドイツ語が日本語に一番近いことを強調する⁴⁾。
- ・次に、ドイツ語でGuten Tagと書くことをはじめて教える。何度も発音練習したのち、ドイツ語の文字とカタカナ表記から、学生自身が「ドイツ語の文字と発音の規則」を自分で発見するように指示する。ここでも教師が規則を教えることをやめ、できるだけ学生みずから規則を発見するように仕向ける。
- ・別れのことば「チュース」をカタカナ表記で教える。ドイツ語tschüsはまだ教えない。これで出会いと別れのことばを覚えたことになる。欧米では、たとえスーパーのレジでさえ、人と出合っただけで別れるときは必ずあいさつをすることを強調する。黙って品物を差し出し黙って店を出て行くのは、日本以外では泥棒のやることだぞと、やや大げさに伝えておく。
- ・ダス・アルファベットウ das Alphabetを教える前に、まず英語のalphabet（アルファベット：初級クラウン英和辞典）を発音させ、A～Zまで各自ノートに書かせる。そのアルファベットを見ながらドイツ語の発音を教える。
- ・英独仏のアルファベットは、ギリシャ語の最初の文字 α （alpha）と二番目の文字 β （beta）からできていることを教える。フランス語の読みが「アルファベ」であることもつけ加える。

※ 4回目（5月7日・3学科合同）の授業

- ・先週の復習からはじめる。①まず英語のアルファベットを読ませ、②次にドイツ語のアルファベートを武田の後について復唱させ、③最後に学生を指名して発音練習をさせる。
- ・学生が飽きないように工夫しながら、ドイツ語のアルファベートの発音練習をする。①まず「カタカナを見ながら読ませる練習」、②「次に国際発音記号を見ながら発音練習」、③「3回目にドイツ語筆記体大文字を見ながら発音練習」、④「4回目に筆記体小文字を見ながら発音練習」。
- ・使用テキストが本日販売され、約半数の受講生が購入済みであった。テキストのタイトル「グーテ・ライゼ！」の発音練習をする。Gute Reise！（行ってらっしゃい・道中ご無事で）とともに、フランス語の Bon voyage！（よい旅を、旅行中お元気で）も教える。
- ・最後に、学生に対して「グーテ・ライゼ」 Gute Reise と「グーテン・ターク」 Guten Tag に関して発音の共通点と相違点を見つけよ、という問題を提示した。ねらいはドイツ語の仕組みを学生自身に発見させることである。「教員が教えたものはすぐに忘れるが、自分で見つけたものは一生忘れない」ことを力説する。ここにドイツ語の本質が隠れていると伝えしたが、学生は何を問われているのかわからないという顔つきをした。

ここで、最初数回の授業紹介から一挙に前期末試験解説を行うことで、途中の授業経過を推測してもらおうことにする。平成24年度後期の授業第1回目（9月24日）に、前期試験について出題の意図を解説しドイツ語学習のポイントを伝えた。以下は試験問題の一部である。

※ 問題1：「次の略語の発音をカタカナで記せ。CD・VW・EU」

- ・Das Alphabet を復習させる。「アー・ベー・ツェー」と順番に言えるようになって慣れてきた後でも、アルファベットの順番が入れ替わったり組み合わせが変わったりすると、とたんに難しくなることを意識させる。例えば、NHKのドイツ語発音（エヌ・ハー・カー）が、普段聞いている音と如何に異なるかを実感させる。3題とも、英語のアルファベットとドイツ語のアルファベートの読み方が異なるものを出题している。英語と同じ発音である F や M や N や S などを問う筈がなく、「出題者の意図を見抜く」ことが試験対策のアーベーツェーであることもつけ加える。
- ・CD は、英語の compact disc (CD player) から日本語に入ったものであるから、シー・ディーではなく正確にはスィー・ディーであるが、日本語と同様、ドイツ語へも英語の CD から入ったもので、ドイツ語のアルファベット読みで「ツェー・デー」となることを伝える。
- ・同じく英語の EU=European Union（欧州連合・ヨーロッパ連合）のドイツ語読みが「エー・ウー」で、聞きなれた英語の発音との違いを意識させるのがねらいである。
- ・VW は、ドイツの自動車メーカー Volkswagen（フォルクスワーゲン）の略語で「ファオ・ヴェー」と、英語のアルファベットとの違いが著しい例として出题している。

※ 問題2：「発音をカタカナで記せ」

- (1) München：ü「ウーウムラウト」の発音と ch の発音を問う問題である。一般的な表記である「ミュンヘン」ではなく、ドイツ語の音に近い「ミュンヒェン」と書かせることを求めている。
- (2) Rhein：ドイツを代表する「父なる川」ラインを覚えさせるとともに、最初に銘記すべき例外的発音である ei「アイ」の発音を確認する。ライン川はギリシャ語の名前に由来しているため、

つづりが変則的なギリシャ語系の **rh** であることにも注意する（関口 48頁）。**der Rhein** は、定冠詞 **der** によって男性名詞であることがわかるが、英語では **the Rhine** となり、表記も異なり性の区別もなくなる。英語学習と違い「ライン川」という名詞を覚えるとき、必ず定冠詞の **der** を頭につけて覚えることが重要であることを伝える。

- (3) **Baumkuchen** : 日本人なら誰でも知っているドイツ語の単語の例として出している。**Baum** (木) と **Kuchen** (ケーキ) との合成語であり、ドイツ語の造語法を伝える。発音としては、「バウム」ではなく「バオム」に近い音である。「クーヘン」の表記は不正確で、カタカナではドイツ語の音を表記できない例でもあることを音声で伝えておく。
- (4) **Volkswagen** : **Volk** (国民) と **Wagen** (車) の2つの単語が **s** によって繋がって出来た合成語であることは、授業で解説済みである。このように単語をくっつけて新しい単語を造っていくのがドイツ語の大きな特徴であり、漢字を用いた日本語の造語法ときわめて類似していることも指摘する。**Volkswagen** は直訳すれば「国民車」であるが、ここで第二次世界大戦前、ヒトラーの指示によってポルシェが作った **Volkswagen** の歴史にも触れる。
- (5) **England** : 日本人の耳に慣れた英語の「イングランド」という音から、ドイツ語式の発音へ慣れさせるための例として出題している。「ローマ字読み」という大原則によって「イング」ではなく「エング」である点と、語末にきた **d** は「ドゥ」とにごらず「トゥ」となるというドイツ語発音の基礎を問う問題である。**Eng-** はアングル族の **Angles** が語源であり、これに **land** がついて「アングル族の国」の意味である。

※ 問題3 : 「schön の発音を、できるだけ実際の音に近づくような工夫をして表記せよ」

- ・日本語の音声にない音を表記させるという、解決不能の問題にも挑戦させて、外国語の本質を考えさせるのがねらいである。正解ではなくても近似値を見つけさせることを求めている。授業では **ö** 「オーウムラウト」の音が、唇は「オー」の形をしたまま口の中と舌先は「鋭いエー」と言え、という発音の方法を教えて実際の音を示すわけだが、これを文字としてカタカナで表記することはきわめて困難な問題である。文豪ゲーテ **Goethe** の **oe** は **ö** と同じ音であるため、昔から「ギョエテとは俺のことかとゲーテ言い」という川柳があるくらいである。森鷗外は処女作『舞姫』の中で、ベルリンのケーニヒ通り **Königstraße** を「キヨオニヒ街」と表記している。（『現代語訳 舞姫』ちくま文庫 138頁）

※ 問題4 : 「<ホテル>の英独仏の読み方を、できるだけ正確にカタカナ表記せよ」

- ・ほぼ万国共通の単語だが、ドイツ語の音が日本語に最も近いことを強張るのがねらいである。
- (1) 英語 : **hotel** (ホテル) 英語のアルファベット **o** の発音は「オウ」である。
 - (2) ドイツ語 : **Hotel** (ホテル) ドイツ語の **o** は「オ」で日本語に近い。
 - (3) フランス語 : **hôtel** (オテル) フランス語のアッシュは発音しない。ドイツ語と同じく「オ」は日本語に近い。

5. ドイツ語フィールドワーク

授業時間以外に学生をいかに勉強させるかが、日本の大学が今かかえている大きな課題である。

だが、厳しい経済事情の中で、しかも2年間という時間的制約のある短期大学では、学生に予習と復習の時間を要求すること自体容易なことではない。こうした状況下ではあるが、授業時間以外にも学生を活動させるという目的で、ここ数年、「街中でドイツ語を探せ」という課題を出している。以下が本年度の課題である。

表1 「ドイツ語演習」課題

平成24年6月4日 (月)
平成24年度前期 「ドイツ語演習」課題 「身の回りの Made in Germany を探せ！」
<p>1 ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の商品を探す。ただし、できるだけお金がかからないように工夫せよ。</p> <p>(1) 商品を買って、包み紙等をレポート用紙に貼りつける。</p> <p>(2) 商品の写真を撮って、その写真を用紙に貼りつける。</p> <p>(3) 商品の内容についてメモした用紙（200字以上）を提出する。</p> <p>2 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等で見つけた商品については、可能ならば現物やコピー等を貼りつけ、それができない場合は文章で説明（200字以上）せよ。</p> <p>3 上記1, 2のいずれにおいても、いつ、どこで、どのようにしてその商品を探したか、そしてどんなことを感じたかを、200字以上でコメントする。</p> <p>4 上記のものを2個以上集める。</p> <p>締切：7月2日 (月) の授業で提出</p>

ドイツ語やドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）に関する調査をさせることで、ドイツ語やヨーロッパに対する関心を、授業時間以外にも意識させようというのがねらいである。学生には、平成24年度前期の評価のひとつとして利用することを伝えた。できるだけ経費のかからないことを条件にしていたため、学生が購入したものはチョコレートやお菓子の類がほとんどであった。高価な製品については写真を撮って情報を提供した者も多い。また、自宅にあったドイツ製品やドイツからお土産にもらった品などを見つけてきた学生もある。以下は、学生たちが収集してきた資料の一部であるが、所属する学科によっても関心の方向が違って興味深い。学生の感想とともに掲載する。

- ・ バールセン・ABC・アルファベット・カラメル・ビスケット・原産国名：ドイツ (Backtradition seit über 100 Jahren) ・ 見つけた場所：アミュプラザ地下1階輸入品を売る店 KALDI ・ 食物栄養専攻学生の感想：ココア風味のビスケットにカラメルシロップをかけたお菓子・パッケージ裏の説明には30グラム食べた場合と100グラム食べた場合の栄養価計算が載っていてわかりやすい。

児童教育学科の学生の感想：A から Z までのビスケットで、食べながらアルファベットの練習になり面白かった。

- バールセン・Bahlsen Zoo・ビスケット：動物型抜きのビスケット・全部で16種類入っていた：der Affe (猿), die Gans (ガチョウ), das Schaf (羊) など。
- フーバープレッツェル・原産国：ドイツ・見つけた場所：アミュプラザ地下1階。
- Frucht-Kaugis (Fruchtgummi mit Fruchtsaft)・見つけた場所：アミュプラザ地下1階・感想：ドイツ語で Frucht-Kaugis という文字を見つけたときはわかるドイツ語が増えてすごく嬉しかった。
- いちごジャム・原産国：ドイツ・見つけた場所：アミュプラザ地下1階・感想：アメリカ, イギリス, イタリア, フィリピン, 中国などの商品は多いが, ドイツの商品が少なく見つけるのに苦労した。
- ハリボー・ミニゴールドベア・(HARIBO GOLDBÄREN)・原産国：ドイツ・見つけた場所：アミュプラザ地下1階・感想：果物の味がする小さなグミ・別の学生(食物栄養)の感想：200グラムという外国サイズの量の多さに驚く。別の学生(教養)の感想：普通のグミよりも噛みごたえがあり, よく噛むと満腹感が得られる。このグミは実家にいるときも食べていてドイツ製と知ってもいたが, ドイツ語を習った今では, 授業で出てきた「ウムラウト」であることがわかり, 少し嬉しくなった。
- ドイツ製のボールペン：高校時代担任の先生がドイツ土産にプレゼントしてくれた。
- 自宅にあった圧力鍋：西ドイツ BEKA 社制・SOLINGEN のハサミ。
- Saure Johannisbeeren (Fruchtgummi mit Fruchtputee)・見つけた場所：イオンの KALDI・感想(食物栄養の学生)：外国のお菓子は日本のお菓子に比べてパッケージに原色を使い, 視覚に訴えるように作られている。外国のお菓子は味が濃く, カロリーも高い。
- 雑誌の記事：ペットボトル100%再利用のバッグ・感想：環境先進国らしい商品。
- カッチェス・サワートロピカルフルーツ・見つけた場所：ドンキホーテ・感想：たまたま友達と買い物に行き偶然目についた商品だった。ドイツの国旗を見た瞬間に「課題」を思い出し, すぐ写真を撮った。別の学生：Saure Troben-Früchte あまり美味しくなかった。
- 街中で Volkswagen のマークの車を見つけ, 意外と身近にドイツを感じた。
- 中学生のころ, ドイツに留学していた従姉妹からもらった熊に, Bamberg という街の名前が入っている。この街を調べた：バイエルン州のオーバーフランケンにある。大学都市, ビールの都。旧市街は1993年に世界遺産に登録された。
- 児童教育の学生感想：いろいろな国の商品があり, 「これはどこだろう」とわくわくしながら探すことができた。・・いつも見慣れていないような外国のものは, 自然と探究心がわいてきて, 探すのも楽しかった。ドイツ語の学習を通して, 異文化についてこれからも学びたい。ハリボー：ドイツの製菓会社。世界最大のグミ製造会社。マスコットは首に赤いリボンを付けた黄色い熊。ハリボーは1920年, ドイツのボンで, ハンス・リーゲル (Hans Riegel) が設立。社名は Hans Riegel Bonn から頭文字の2文字ずつとって名づけられた。グミは子どもの咀嚼力を強めるキャンディーとして開発したもの。

- ・ワインリッヒ・ストロベリー・チョコレート・アミュ地下1階 KALDI.
- ・ドクターソルダン・キンダー・エムユーカリ・キャンディボックス・感想：日本製のキャンディーは一つひとつ包み紙に入っているが、これには包み紙がなくすべてが一つの箱や缶に入っている。味も違う。このキャンディーには砂糖が入っていない。子どものことを考えているのだろう。

かなり興味のある課題であったことが学生の感想から窺える。買い物に対する関心の大きさが学生の背中を押したようだ。できるだけ学生に身近な話題を提供することが学習効果を上げるコツだろう。最後に、学生が収拾してきた資料（お菓子の包み紙）のひとつをドイツ語に訳して掲載しておく。

Die Katjes Garantie : <カッチェス>の保証

Für uns von Katjes ist die Natur : わたしたち<カッチェス>にとって、自然は das beste Vorbild. Bei den Sauren : 最高の手本。<サワー

Johannisbeeren gilt: クラント>で価値があるのは

nur natürliche Aromen : ただ、自然な香りだけ。

nur natürliche Farben : ただ、自然な色だけ。

Wir meinen: Das sieht man : わたしたちは思う、「それが目に見えるし、

und das schmeckt man. : その味がする」と。

Leckeres Jannisbeerpüree rundet : おいしいクラントピューレーは、仕上げている

den intensiven Fruchtgeschmack : (<サワークラント>) 強烈なフルーツ風味を。

unserer Sauren Johannisbeeren ab. : <サワークラント>の

Beerig gut ! : ぶどう (いちご) が美味い!

Katjes, : カッチェス

-jes, -jes, -jes ! : イェス, イェス, イェス, !

Familien- : 家族的

Unternehmen : 企業

Seit 1910 : 1910年創業

6. ドイツ映画鑑賞とドイツ文学鑑賞

平成24年10月27日、児童教育学科1年生に対してドイツ映画鑑賞会を行った。映画は、1994年にドイツで制作された『ふたりのロッセ』で、原作者は児童文学者のエーリッヒ・ケストナー(1899~1974)である。土曜日に実施したため他の補講と重なり、参加した学生は通常より少ない43名であった。『ふたりのロッセ』は夏休みの課題図書のひとつでもあり、原作を読んだ上で鑑賞した学生も10名ほどいた。

鑑賞にあたっては、「ドイツ語の聞き取り」に注意することや、登場人物の仕草や振る舞いについてドイツと日本との違いに着目するように指示した。学生の感想によれば、聞き取れたドイツ語

の数は必ずしも多くないが、わずかでも聞き取れた時の喜びはきわめて大きかったことがわかる。また、映画は異文化理解にも効果的なようで、右側通行の車やコンパートメント式の列車、列車が国境を越えていくこと、学校での試験の様子、子どもたちの大胆な発言や振る舞い、親子間のスキンシップ等について言及した学生が多かった。以下にアンケートの結果を掲載する。

☆ 聞き取れたドイツ語（ドイツ語表記は学生が書いたもの）

Kinder / キンダー・danke / ダンケ・ich / イッヒ・eins / アインス・zwei / ツヴァイ・Tschüs / チュー
ス・München / ミュンヘン・Berlin / ベルリン・ハロー・ママ・パパ・チャオ・ヤー・エースタ
ライヒ・ショコラ・ターク・トイトイトイ・パスアウフ（気をつけて）・ミュージケル・ヴィー・
アハ・アオス・モーンターク・シェフ・エゴイスト

☆ 日本と異なる点

車が左ハンドル・車は右側通行・タクシーに会社名を書いたプレートがない・道路に駐車する・
家が広くて大きい・家の中に靴のまま入る・洗濯機ははじめて見る形・列車の中が部屋になって
いる、日本にはあんなおしゃれな列車は走っていない・列車の窓が上部だけ開く・列車が国境を
越えて走る・街の風景が違う・街中に噴水がある・羊がたくさんいた（スコットランド）・サマー
スクールがある・寄宿舎がある・机の形が違う・小学校でテストに追試（再試）がある（落第が
ある）・テストが口頭試問である・出会ったらキスやハグをする、あいさつのときキスをする・
握手をする・親子のスキンシップが多い・列車を非常停車させても怒られない・フレンドリーで
ある・思ったことをズバズバ言う・大胆な行動をとる・お祈りがある・洗礼名がある

☆ その他、感想

感動した・とても楽しい映画鑑賞だった・音楽が素敵だった・ケストナーの「子どもたちこそ大
人の鏡である」というメッセージが伝わってきた・夏休みの課題図書で読んでいたため理解しや
すかった・本を読んでから映画を見るのはとてもいいと思う・一度本で読んだが、本とは違う映
画の面白さがあつた・原作と少し違っていた・原作と大分違っていた・「人生には急停車も必要
である」という言葉がよかった・もう一度見たいと強く思った

次に、夏季休業中の課題として「ドイツ文学の名作を読む」という宿題を出した。提出を強制し
たわけではないが、平成24年度後期の評価に入れるという条件をつけた。以下が「夏休みレポート」
の課題用紙である。

表2 「ドイツ語演習」夏休みレポート

平成24年 7月25日 (木)
2012年 「ドイツ語演習」夏休みレポート
<p>※ 後期の評価に加算する.</p> <p>1 提出締切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み明け最初の授業. <p>2 分量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000字程度. ・一般論として分量は多いに越したことはない. ・ワープロ書きやレポート用紙の場合は字数を書いておくこと. <p>3 形式 (も大事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは必ず綴じる. ・レポートには表紙をつけ, タイトル・学科・クラス・番号・名前を書く. ・筆記用具として鉛筆は不可, 万年筆・ボールペン等を使うこと. ・「人に読んでもらう」ことを考えて, わかりやすく, 丁寧に, 自分の言葉で書く. ・文章は何度も推敲する. ・ワープロ書きが望ましい. ・手書きも味がある, しかし丁寧に書くこと. <p>4 課題</p> <p>次の中から1冊を選んで読む. 最も心に残った部分を抜き出してそのまま写し, 選んだ理由を簡単にコメントする. 何ヶ所抜き出してもよい. 抜き書きとコメントをいくつも合わせ, 合計で2000字程度. 使用した書籍の出版社名と引用頁も書いておく.</p> <p>(1) テーオドーア・シュトルム:『みずうみ』</p> <p>(2) エーリッヒ・ケストナー:『ふたりのロッテ』</p> <p>(3) アーダルベルト・シュティフター:『水晶』</p> <p>(4) フランツ・カフカ:『変身』</p> <p>(5) ミヒャエル・エンデ:『モモ』</p>

課題提出者は, 児童教育学科が49名中39名 (80%), 生活科学科が44名中36名 (82%), 教養学科が16名中14名 (88%) であった. 読書に対する関心の違いが学科専攻によっても見られるようである.

表3 「ドイツ文学」課題

	児教	生活	教養	合計
フランツ・カフカ：『変身』	16名	11名	6名	33名
ミヒャエル・エンデ：『モモ』	11名	14名	5名	30名
エーリッヒ・ケストナー：『ふたりのロッテ』	11名	5名	2名	18名
テオドール・シュトルム：『みずうみ』	1名	5名	1名	7名
アーダルベルト・シュティフター：『水晶』	0名	1名	0名	1名
合計	39名	36名	14名	89名

エンデの『モモ』を選んだ学生が3学科共通で多かったのは、小学校以来なじみの作品だからであろう。カフカの『変身』を読んだ学生が最も多かったのは意外であった。変身というタイトルに惹かれたのか、あるいは村上春樹の影響なのかはよくわからない。ケストナーの『ふたりのロッテ』を選んだ割合が児童教育学科で多かったのは、子どもに対する関心の高さと関連があるものと思われる。

7. 大学のめざすべき授業と短大でできる授業

ここで、アメリカとイギリスの大学教育を参考にして日本の大学の未来を展望し、あわせて短期大学でも可能な授業のヒントを探ってみよう。

まずアメリカの大学から学ぶべき点を、刈谷剛彦の『アメリカの大学・ニッポンの大学』⁵⁾から取り上げる。これは1992年に出版したものを2012年に新書版に直した著書だが、内容はアメリカの大学で教えた「新米教師の体験談」に基づく日米大学教育比較論である。20年前の内容が全く古くなっていないところに日本がかかえる問題の大きさが表れている。刈谷によれば、アメリカの大学では「学ぶかたち」がきわめて具体的ではっきりしている。ほとんどの授業が学生に求めるものは、①文献購読の宿題、②討論を通じての授業への参加、③図書館でのリサーチを必要とするレポート執筆である。このための基本的学習スキルを大学の1年目で身につけさせる。(42頁)

20年前より多少改善されたとはいえ、現在でも日本の大学生たちが十分に鍛えられて卒業しているとは言えない。高等教育のグローバル化に依然として対応できずに、日本の大学が世界から取り残されている現実は否定できない。アメリカの「学ぶかたち」と比較して、刈谷は日本の講義形式の授業を次のように批判している。

日本の大学の講義では、教授の話を学生がノートにとり（あるいは友だちのノートをコピーし）、暗記（すなわち、ちょっと勉強）すれば簡単に単位は取れるといった「甘い授業が少なからず存在する。」「アメリカの大学のように、基本的な学習スキルを身につけていなくても、知識の受容さえ形式的に行っておけば、それで十分なのである。その結果、論理的文章を書けない、人の前で自分の意見をきちんと話せない、人の話をまともに聞けない、自分で何かを調べる方法を知らない、そういった学生が、大量に大学から日本社会へ出ていくことになる。」こうした状況の背景には、明治以来の「欧米に追いつき追い越せをモットー」にしてきた日本社会の存在があり、大学は外来

の「知識の輸入」を行う本拠地であったという歴史がある (45～46頁)。

刈谷は、東京大学で教育学を学んだ後、シカゴのノースウェスタン大学で社会学の学位を取っている。日本の大学教壇に立ってすぐ、アメリカの上記の大学院で教えた体験を書いたのが『アメリカの大学・ニッポンの大学』である。その後、東京大学大学院教育学研究科教授の職を経て、2008年秋以降はオックスフォード大学社会学科および現代日本研究所教授、セント・アニーズ・カレッジ・フェローとなる。東京大学の職を捨てた理由を、刈谷は「ワールドクラスの学生を指導してみないか」との誘いに「目の前がぱっと開けて」応募したと述べている。ワールドクラスという意味は、「戦争や紛争、貧困、国家建設など、世界中のさまざまな問題を抱え、それを解決しようと学問をめざす学生が (世界中から) 集まってくる。そういう学生を教える」⁶⁾ ということである。

次に刈谷のオックスフォード大学での体験から、イギリスの大学に学ぶべき点を見てみよう。『イギリスの大学・ニッポンの大学』(2012年10月)は、オックスフォード大学教員としての実体験をもとにした大学論であり、日本の大学をグローバル化することが著者の目標である。刈谷は、日本の大学がグローバル化に対応できないでいる理由を、これまで通用してきた仕組みにしがみつき、「日本社会という閉じたコップの中」での議論に終始しているからであると結論づけている (14頁)。巻頭言には次のようにある。「グローバル化の変化に対応できず、日本社会という閉じたコップの中で、それ以前に通用していた仕組みにしがみつき、その仕組みのもとでいまだに誰が相対的に有利になるかを競い合う構造が存在する。その結果が、コップの外から見れば大きな負の結果をもたらしていることがわかって、やめることも変えることもできない。公的な財政事情が悪化することと相まって、打つ手がない状態が続くのである。」(4頁)

刈谷は「秋入学にただけでは、日本の大学はグローバル化に対応することはできない」、「教育の質を高めなければ意味がない」として、オックスフォード大学にあって「東京大学にないものは、〈カレッジ〉(学寮) という仕組みと〈チュートリアル〉と呼ばれる個別指導中心の教育」であるという。チュートリアルとは、週に1回1時間、学生2～3人に1人の教員がつき「毎週、何冊もの文献購読が求められ、それを読んで教員から課された課題に答えるレポート (A4用紙に10枚程度) を毎回執筆し提出する。文献の要約ではなく、課題に応じた分析と自分の考えを書く」指導体制である。このレポート (エッセイ) をもとに「教員と質疑・議論し、これを毎週繰り返すことで分析力、批判的思考力、〈自分で考える力〉が育つ」と考えられている。カレッジは「専門分野を越えて教員と学生とが学びと生活を共有する学問共同体」である。(17頁～18頁)

ワールドクラスの大学と比べるとは少々おこがましいが、短大の学生たちに持ってほしい問題意識も、同じく戦争の回避であり貧困の問題であるといっている。トップクラスの大学ではない地方の一短期大学ではあっても、未来を担う人たちに考えさせるべき問題は同じでなければならない。刈谷の紹介事例の中には、教員個人が決断しさえすれば日本のすべての大学で可能なヒントも隠されているのではないだろうか。

入学時点では、オックスフォードの学生や教員集団のレベルも東大と同レベルにあり、教員1人当たりの学生数の差もないと刈谷は言う。「ところが、入学後の教育と学習に大きな違いが出てくる。」(19頁) ポイントはここにある。いいかえれば、入学時のレベルとは無関係に「教育と学習」

によって学生を伸ばすことができるということだ。具体的に何をすればよいのかを探れば、短大にも応用できる点があるはずである。日本との違いを、刈谷は「多くの講義を聴くことを中心とした教育と、多くを読んで書いて議論する学習との違いである。それは徹底して考えることを教育の中心に置いているか否かの違いである」と見ている。「その結果、大学教育を通じた＜伸びしろ＞に違いが出てくる」(19頁)という。「講義を聴くことを中心とした学習の限界に気づく必要がある。何をどれだけ読ませ、書かせるか。それがカギとなる。」(20頁)これが、刈谷の具体的な結論である。短大の授業でもできるところからやってみたいと思わせる結論である。

オックスフォード大学では、会話の中で、何を学んでいるのか、専門は何かを聞くときに、「何を勉強しているのか = What do you study?」とは言わずに、「何を読んでいるのか = What are you reading?」と聞き、答える側も“I am reading history.”とか“I am reading philosophy.”と答えるという(27頁)。これは、readが本質であるということがよく理解できる、とても象徴的な説明だ。学ぶことの中には読むことがあり、しかも「読むべきものがだいたい決まっている。しかも、半端な量ではない」という。大学の学部時代に歴史、文学、哲学等で、学生が読むべきものが決まっているというのが大切な点だろう。時代が変わっても、恐らくは同じものを読んできたのであり、そこへ新しいものがつけ加わっていただけだろう。

短大の教育にこれを応用すれば、例えば本学で学生に読ませるべき書物を指定するという手がある。これによって本学が育てたい学生のイメージをきわめて具体的な形で、高校生や保護者や一般社会へアピールできるはずだ。間違いのない書物を選択しさえすれば、これによってリードできる。各教員が専門の代表的書籍や古典的書籍を提示したり、「私の教養を培った書籍」等を推薦するのもいいかもしれない。

さらに、「読まずに聞く」という講義形式を基調とした日本の大学教育を変える必要がある。「右の耳から左の耳へと通りぬける話の集合体」(28頁)である大学教育を変える方法は何か。学生に作業をさせ、自発的に体を動かすようにし、自分で頭を回転させる方法を工夫しなければならない。本を読ませる工夫をするとともに、学生が教室で話を聞くのではなく学生自身が自ら話す授業へ、さらには学生が自ら書く授業へと変えていく必要がある。この点でも、大村はまの行った教育実践が多くのヒントを与えてくれるものと思う。

まず、学生に本を読ませる授業の実践例として、藤原正彦の『名著講義』(平成20年～21年初出)を取り上げたい。これは、お茶の水女子大学で10数年にわたって続けられた読書ゼミの講義録である。新入生20数名の受講者が毎週1冊の文庫本を読み、翌週それに関するレポートを出して授業中はディスカッションをする。方法は刈谷の紹介しているオックスフォードの例とほぼ同じであるが、藤原の場合もコロラド大学やケンブリッジ大学での経験が活かされているものと思われる。取り上げられている課題図書は、新渡戸稲造『武士道』、福沢諭吉『学問のすゝめ』キャサリン・サンソム『東京に暮らす』など13冊である⁷⁾。学生に対する影響は、「ゼミをほんの数回ただけで学生たちはみるみる変わって行く・・・余りに劇的に学生が変わるので、洗脳教育をしているのでは、と自問することさえ時にはあった」というほどで、読書の効果は明らかである。

次に、短大でも今すぐ実行できそうな読書指導の例を、大村はまの実践からひとつだけ紹介する。

学生に本を読ませるために、「これから読みたい本」をリストアップさせるという実に簡単な読書指導である。中学校時代の教え子である刈谷夏子によると、大村は「いま、どんな本を読みたい？」と聞いて、ひとつも本の名前を言えないような人はつまらない、とまじめな顔で言ったという。「三十数年前に聞いたこのことばは、ちょっとおかしいくらいに私の中に染みついでいて、今も私は“読みたい本”を胸に持つようにと思って暮らす」と書いている⁸⁾。大村が指導したのは「読書の記録」を書くことではなく、「読書生活の記録」⁹⁾をつけることであった。読んだ本を記録するだけでなく、興味をひく新刊書の広告を切り抜いたり、本を紹介した掲載紙の名前や日付を書き込むという知的な作業を教えようとしたのだ。これならば、すぐに読む必要はないから気楽にはじめられる画期的な方法である。しかも、うまくいけば刈谷夏子のような、三十年以上経ってもこのことが胸から離れない本物の読書家を育てる可能性も残っている。「読んだ本はなかなかふえない。読みたい本はどんどんふえる。」¹⁰⁾ 大村の生徒である中学生が書いたというこのささいなことばこそ、未来に向かって子どもたちを大きく育てる魔法のことばに違いない。

注

1) 大村はまの教育姿勢と覚悟、すなわち大村の授業の迫力は、戦争体験からきている。『日本の教師に伝えたいこと』(ちくま学芸文庫・2006年8月)の中で、単元学習を始めた思いを大村は次のように語っている。「なぜ単元を始めたか。これは、私の動機から言いますと、“戦争”ということだと思います。あのときのみじめな思い、自分だけでやったわけではなくても、自分が子どもたちを戦争に追いやった一員であり、どんな教育がどんな人を育てて、どんなふうになってどうなったか、それを見て、そのみじめさのまっただなかに一所懸命になって生きて、戦争が終わったときの、あのやり切れない虚しさは何とも言えませんでした。」(124頁)

大村の教え子である刈谷夏子は、著書『優劣のかなたに 大村はま60のことば』(筑摩書房・2007年3月)で、次のように証言している。「第二次世界大戦の時期を、大村は、東京府立第八高等女学校の教員として過ごしている。晩年まで、戦争中の教員生活のことを人に問われると、“私は戦争に協力しました”と、厳しい顔で言った。」(29頁)

なお、上記の『日本の教師に伝えたいこと』の他、以下の大村はまの著書を参考にした。『新編 教えるということ』(ちくま学芸文庫・2011年5月)、『新編 教室をいきいきと1』(ちくま学芸文庫・2008年7月)、『新編 教室をいきいきと2』(ちくま学芸文庫・2008年5月)。さらに、大村はま/刈谷剛彦・夏子『教えることの復権』(ちくま新書・2003年)も参照した。

2) アンケート結果(第2回授業:2012年4月16日・2クラス・合計受講者数107名)

「ドイツ」と聞いてイメージするもの:

ビール・ビールをたくさん飲む35名(33%), ベルリンの壁(ベルリン・首都ベルリン12を入れて)35名(33%), サッカー・サッカーが強い・内田驚人・オリバーカーン・ヴォルフスベルクの長谷部28名(26%), ソーセージ(ドイツ語でソーセージを表す「ヴルスト」Wurstと書いた者数名)20名, 肉2やフランクフルト1を入れると23名(21%), ナチス・ヒトラー・ユダヤ人迫害・ファシズム・戦争・軍隊・軍服・軍隊の行進17, イタリア(日独伊三国同盟)2も入れると第二次世界大戦に関するものが19名(18%), じゃがいも・ジャーマンポテト16名(15%), 未記入9, おしゃれな感じ・ファッション・優雅6, ドイツの

国旗・国旗の色（赤・黒・黄）5，医学・医者・病院・医療・カルテ4，音楽が有名・音楽の都・音楽用語・ベートーヴェン4，ごつい・堅い4，かっこいい・イケメン・背が高い3，ヨーロッパの国3，ワイン3，都会・建物が大きい3，器用・日本人に似ている（礼儀など）2，ゲルマン（民族）2，わからない2，豪華2，発音が難しそうだ2，アウトバーン1，雪が降る国1，広い1，世界史に何度も出てきた1，ドイツ語は難しそうだ1，スポーツが盛ん1，ビスマルク1，お菓子1，プロイセン1，羊1，Uボート1，憲法1，強い1，訓練1，ルール炭田1，テディベア1，メルヘンの音楽隊1，ベンツなどの外車1，クリスマスマーケット1，エッフェル塔1

3) 関口存男『関口・初等ドイツ語講座（上巻）』（三修社・1974年）2頁。

4) 平成24年5月12日（土），大島地区出前オープンキャンパスで，奄美大島の高校生を対象に「出前授業」をした。以下はその資料である。

平成24年5月12日（土）

<英語ざらいに効くドイツ語おもしろ講座>

鹿児島女子短期大学 武田 輝章

1 英語の発音はむつかしい

(1) Thank you! 「サンキュー」 Hello! 「ハロウ」

(2) Thank you! 田尻式発音記号

(3) 英語: hello 「ヘロウ」 独語: hallo 「ハロー」 仏語: allo 「アロー」

2 カタカナを読んで通じるドイツ語 <あいさつは世界をつなぐ>

・ゲーテン ターク

・Good afternoon! Guten Tag! Bonjour!

3 ドイツ語は「ローマ字読み」

・Karte

・Danke! Bitte! (2語でドイツ旅行ができる!)

Thank you. Danke. Merci. <ありがとうは世界の共通語>

4 日本語になったドイツ語

・Thema Baumkuchen Arbeit Arbeiter

・フリーター freeter = free Arbeiter (1987年生まれの英独混在和製用語)

5 ドイツ語になった日本語

・漫画 manga (英) Manga (独) manga (仏)

メンガ マンガ モンガ

・津波 tsunami (英) Tsunami (独) tsunami (仏)

・die Satsuma (独) 温州みかん (幕末に薩摩藩の武士がヨーロッパに紹介した)

6 みんな知っているドイツ人

・Luther Hitler Einstein Röntgen Alzheimer Benz Mozart Beethoven Grimm Goethe

7 外国語を学ぶ意味

・Wer fremde Sprachen nicht kennt, weiß nichts von seiner eigenen.

外国語を知らない人は，自国のことばについて何も知らない。(ゲーテ)

5) 刈谷剛彦『アメリカの大学・ニッポンの大学』（中公新書ラクレ・2012年9月）

6) 刈谷剛彦『イギリスの大学・ニッポンの大学』（中公新書ラクレ・2012年10月）14頁～15頁。

7) 藤原正彦『名著講義』（文春文庫・2012年）3頁～4頁。

ゼミで読まれた作品は以下の通りである。第1回：新渡戸稲造『武士道』・第2回：内村鑑三『余は如

何にして基督教徒となりし乎』・第3回：福沢諭吉『学問のすゝめ』・第4回：日本戦没学生記念会編『新版きけわだつみのこえ』・第5回：渡辺京二『逝きし世の面影』・第6回：山川菊栄『武家の女性』・第7回：内村鑑三『代表的日本人』・第8回：無着成恭編『山びこ学校』・第9回：宮本常一『忘れられた日本人』・第10回：キャサリン・サンソム『東京に暮らす』・第11回：福沢諭吉『福翁自伝』・最終講義：藤原正彦『若き数学者のアメリカ』『孤愁』。

8) 刈谷夏子『優劣のあなたに 大村はま60のことば』(筑摩書房・2007年) 110頁～111頁。

9) 大村はま『新編 教えるということ』144頁～145頁

「読書生活の記録」の内容は多彩で、前書きを書く紙・目次を書く白紙・「読書を考えるページ」・「読書ノート」用紙・感想文を集める用紙・図書紹介書評を集める用紙とその切抜きを貼る用紙・「読書生活評価表」など、17～18種類の用紙を一冊にとじたものであった。

10) 刈谷夏子『優劣のあなたに 大村はま60のことば』109頁。

(2012年12月7日 受理)